HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『三国演義』連環画とその日本版
Author(s)	武田, 雅哉
Citation	連環画研究, 6, 152-161
Issue Date	2017-02-28
DOI	https://doi.org/10.14943/2115.98453
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98453
Type	departmental bulletin paper
File Information	renkanga_6_152-161.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

『連環画研究』第６号　2017 年２月

『三国演義』連環画とその日本版

武田雅哉

『三国演義』を完成させよ！

1955 年から翌年にかけて、上海人民美術出版社は、新しい『三国演義』の連環画を作ることを決定した。原作が『三国演義』であるから、おのずと堂々全 60 冊という大長編連環画となった。これは、ひとりやふたりの絵師の手では無理である。かくして、当時の上海で活躍していた、歴史もの連環画の名手たちが、オールスターで出馬することとなった。劉錫永、徐正平、陳光鎰、凌濤、盧汶の５人である。脚本の編集は、上海人民美術出版社の楊兆麟らが担当した。かれらは『歴代帝王像』『凌煙閣功臣図』『三国演義』はじめ、関連する文献や図像資料を研究し、登場人物 115 人のキャラクターデザインを完成させた。

1957 年８月の『連環図画研究』第 11 期は、このプロジェクトに関する資料の特集になっている。連環画『三国演義』全 60 冊の内容の箇条書きにつづき、「三国演義人物造形」と題されたキャラクターデザインが掲載されている。ここに掲げたものは劉備と関羽だが、それぞれ三つの時期に分けてデザインがなされているとともに、顔の大写しが付せられている〔右図〕。

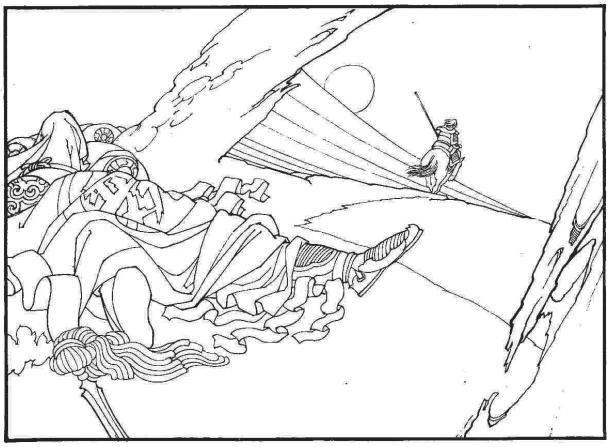
壮大なプロジェクトであった連環画『三国演義』は、1957 年９月に、第４巻の『虎牢関』を第１弾として刊行が始まり、順不同ながら、その年のうちに 16 冊が世に送られた。翌 1958 年には 25 冊、59 年には９冊、60 年にも９冊、61 年に２冊が刊行されて完成した。これらを合計すると 61 冊になる。これは『火焼新野』が２種類刊行されたことによる。近年刊行された、張憬虚『三国演義連環画封面図考』(連環画出版社、2014）によれば、59 年に刊行され

た『火焼新野』は、新人として作画担当に抜擢された張大経の絵が「個性的」すぎて、全体とのバランスが悪く、読者からも否定的な反響が大きかったという。そのため、これを廃して、60 冊が出揃ったあとの 61 年 11 月に、この冊が呉志明と葉之浩の作画によって、あらためて制作されたのである。

ここに同じ場面を描いた両者の絵を並べてみよう。呉志明と葉之浩の絵〔右上図〕は、当時としては、きわめてスタンダードなものであった。

（87）这边，魏延与文聘杀了多时，手下兵卒都伤亡了。魏延拨马而逃，却寻不见刘备，便投长沙太守韩玄去了。

いっぽう張大経の絵は、大胆な構図や、線の省略、空白の使いかたなど、どちらかというと、80 年代以降に出現した、外国画の影響を多分に受けた絵柄に近いようにも見える。たしかに、当時にしては前衛的すぎたのかもしれない〔右下図〕。



（84）這邊，魏延與文聘殺了多時，手下兵卒都傷亡了。魏延撥馬而逃，却尋不見劉備，便投長沙太守韓玄去了。

張大経の『火焼新野』は、これをもって闇に葬られたかと思いきや、現在では、別のかたちで、上海人民美術出版社から復刻版が出されている。早すぎた絵師にとって、僥倖であるといえようか。『三国演義連環画封面図考』は、各巻の表紙をカラーで紹介したものだが、一冊一冊の経緯についてもくわしく紹介していて、しかも先述の「三国演義人物造形」が附録としてついている。

『三国演義』連環画の刊行時期は、毛沢東が、「右派」狩りをすべく発動した「反右派闘争」の時期にあたっていた。その影響で、『三国演義』は「封建統治思想を讃美するもの」として批判され、作業は一時停止を余儀なくされたものの、政治の風がいくぶんおだやかになると、作業はふたたび継続され、1963 年までに第 2 版が世に送られた。全 60 冊とはいえ、描き変えられたものやら、新たに描かれたものやらがあり、この段階で、しめて 67 冊が刊行されたことになった。

それもつかのま、1966 年には「文化大革命」が発動され、連環画出版は壊滅的な打撃を受ける。出版社が「三名三高」――名作家、名俳優、名教授は、給料が高く、原稿料が高く、報奨金が高いということ――の方針に従っていることも批判された。たとえば、『三国演義』の表紙それぞれにタイトル文字を書いた、書家で画家の賀天健などは、表紙 1 冊で 3 元を、60 冊で 180 元もの原稿料を稼いだことが批判され、「反動学術権威」と指弾された（王明賢・厳善錞『新中国美術図史 1966-1976』77 頁による）。

文革が終熄した 1978 年には、12 冊が削除された 48 冊のみが刊行された。さらに 80 年代以降になって、全 60 冊がふたたび刊行される。ただし、作品には複雑な出入りがあるため、これは 5、60 年代のものと完全に同じではない。

このように、紆余曲折を経て完成した『三国演義』連環画だが、それでも、あまりにも有名な古典小説の大河連環画として、上海人民美術出版社版は、おおいに評判となった〔上図〕。ただし、最終冊の『三国帰晋』が 16 番目に早ばやと刊行されてしまうなど、出版の順序がバラバラで、これには読者からの不満も多かったという。『三国志』ファンの多い日本でも翻訳され、横山光輝もこれを参考にして、その漫画『三国志』を描いたといわれるが、この問題については、清岡美津夫「横山光輝はなぜ官渡の戦いを描かなかったのかをめぐって」（三国志学会『三国志研究』第 10 号（2015））を参照されたい。

上海人民美術出版社版の『三国演義』連環画については、楊兆麟の「曹操形象及其他――関於『三国演義』連環画的創作」、「聊聊『三国演義』連環画」、「『三国』連環画合訂本出版雑感」（同氏『晴斎雑拌』香港天馬図書有限公司、2002、所収）や、一可・未名・王軍『小人書的歴史』（重慶出版集団・重慶出版社、2008）などに詳説されているが、特に各版本の異同については、田偉明「上海人美『三国演義』連環画版本談」（田偉明主編『連環画収蔵与鑑賞』三明市連環画収蔵研究会、1998、所収）、先述の張憬虚『三国演義連環画封面図考』などに詳しい。

日本での連環画の紹介

中国の連環画は、日本ではどのくらい紹介されてきたのだろうか。

1974 年、中国では文革の後期にあたるころ、田畑書店から『中国の劇画　連環画』が刊行されている。これは「孫悟空、白骨の妖精と三度闘う」「白毛女」「東郭先生」の三作品を翻訳して紹介したものである〔右図〕。

「孫悟空、白骨の妖精と三度闘う」は、趙宏本と銭笑呆という、連環画の名手による 60 年代初頭の有名な作品だが、ここではあらたに描きなおされた文革版に拠っている。

文革版では、あまりにも有名な二人の名前は明記されず、編集と絵の担当は「上海市新聞出版系統“五・七”幹校《孫悟空三打白骨精》創作組」となっている。

「白毛女」は、革命様板戯のバレエ版で、制作したのは、同様に「上海市新聞出版系統“五・七”幹校《白毛女》連環画創作組」という表記だ。

「東郭先生」は、劉継卣（りゅうけいゆう）の有名な作品だが、こちらは個人名を出しているものの、残念なことに「劉継貞」と誤記されている。これは日本側のミスであろう。

翻訳とはいっても、中国語の原文がそのままついている対訳のスタイルをとっているので、これを中国語の勉強の教科書にした先生も、当時はいたかもしれない。1 頁に 2 コマを入れている。「内容紹介」などもそのまま載せていて、文革期連環画の雰囲気をよく伝えている。「あとがき」によれば、「連環画」ということばは日本ではなじまないので「劇画」にしたという。それでも「連環画」の三文字をタイトルに入れているのは貴重であろう。

ちなみに、文革時期には、現代を舞台にした連環画が山ほど書かれていたが、そのようなものは日本ではだれも進んで読まないであろうという判断からか、出版などはされていない。ただ、日本語版の広報誌『人民中国』には、1974 年から 75 年にかけて、このたぐいの作品がいくつも紹介されている。それらは「孫悟空の妖怪退治」（『孫悟空三打白骨精』）や「東郭先生」のほか、「真の共産主義者ベチューン」（『白求恩在中国』）、「罪悪にみちた孔子の一生」（『孔老二罪悪的一生』）など、当時にあっては、積極的に外国に紹介すべき、堂々たる傑作とされた連環画を含んでいた。

『三国演義』連環画、日本に渡る

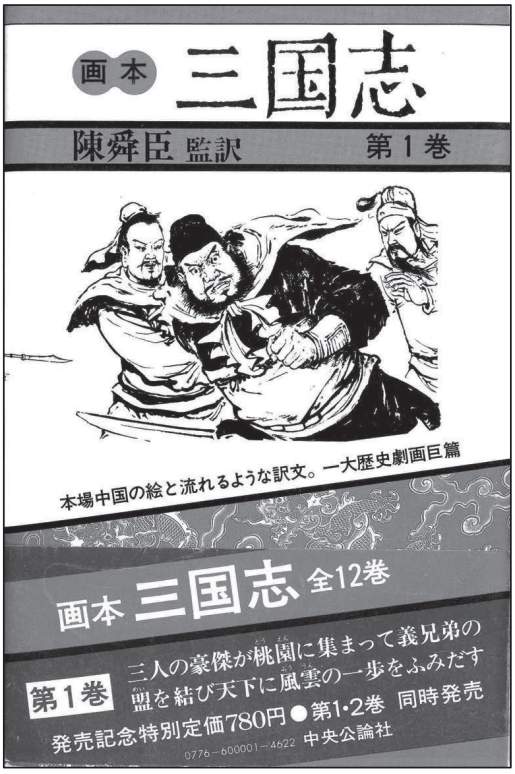
文革も終焉して数年、連環画がふたたび隆盛を取り戻したころ。1983 年から翌年にかけて、中央公論社が「画本」シリーズと銘打って『三国志』（陳舜臣監訳）、『水滸伝』（駒田信二訳）、『西遊記』（村松暎訳）、『紅楼夢』（松枝茂夫訳）を刊行した。

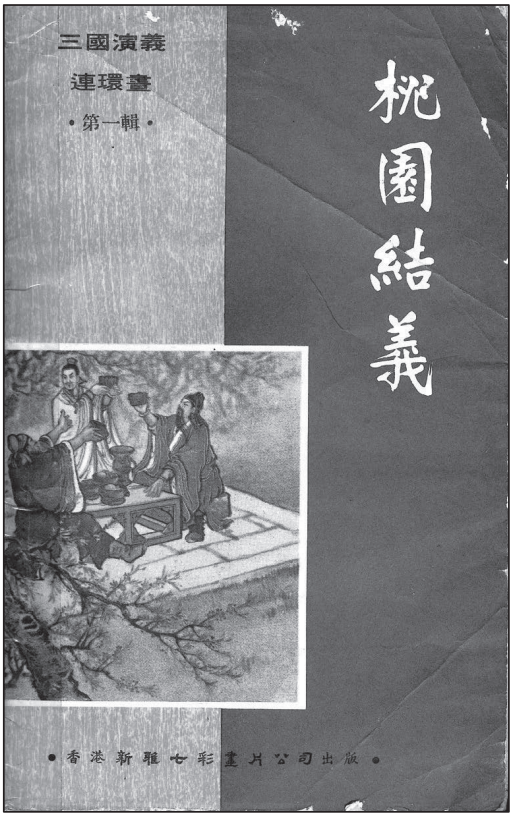
このうち 1982 年から翌年にかけて刊行された『画本三国志』は、61 話を全 12 巻に収めている〔右上図〕。あの上海人民美術出版社版を翻訳したものかと思いきや、その「付記」によれば、これは、香港・新雅文化事業有限公司刊行の『三国演義連環画』を翻訳したものであるという。また、連環画において、物語の順序が前後したり重複している箇所については、適宜訂正して『三国演義』に添うようにしたとのこと。基本的に 1 頁に 2 コマを収めていて、文字の翻訳は、絵図の上に配置している。

「新雅文化事業有限公司」の『三国演義連環画』というのは、どのようなものであろうかと思っていたら、最近、中国人の教え子の助けによって、それらを入手することができた。

ひとことでいうと、上海版を、装幀を変えて香港で刊行したものである。『三国演義連環画』と題されたシリーズで、1957 年から 61 年にかけて大陸で刊行された上海人民美術出版社版『三国演義』60 冊を、2 倍の判型の 32 開本にし、1 頁に 2 コマの絵を配して刊行したものだ〔右下図〕。

出版社は、当初「香港　新雅七彩画片公司出版」と表記されている。1970 年から 74 年までに全 60 巻が出揃ったものだ。





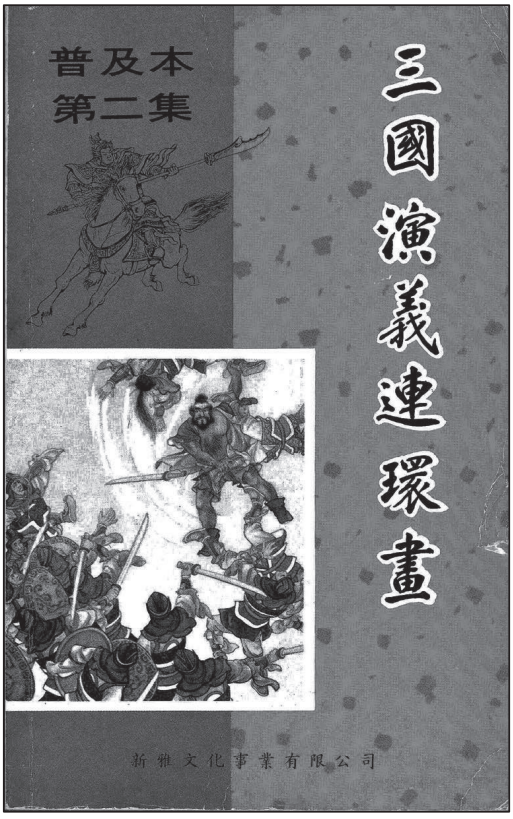
また、6冊づつをまとめて1集とした「普及本」全10集も同時に刊行されていて、こちらは90年代にも版を重ねていたようだ〔右上図〕。架蔵のものには「1992年5月第10次印刷」と明記されているものもある。そのように、あとになって印刷されたものになると、社名が変更されて、出版社は「新雅文化事業有限公司」となっている。

『画本三国志』を見てみると、香港版の『三国演義連環画』が依拠した初版60冊本に忠実ながらも、1962年の第2版になって加えられた『李郭交兵』などは「離間の計」と題して収録している。

さらに1988年には、啓明研究会というところが、上海人民美術出版社の連環画『三国演義』によって邦訳を出版している。つまり、中央公論社のものと、ほぼ同じ内容の『三国志』の連環画が、商魂たくましい日本の書肆の「三国志ものは売れる！」との判断によって、またひとつ世に送られてしまったのである。奥付には、「原典訳」が王春雄、「翻案構成」が山野達夫、「編集参与」が鶴崎友亀によるものであると明記されている〔右下図〕。

ほぼ同じ連環画から、日本において2種類のヴァージョンが生まれたというわけなのだが、これら2種の翻訳のスタンスは、まったく異質なものであった。

いずれも基本的に1頁に2、3コマを入れている点は共通しているが、中央公論社のほうは、ほぼ原著をそのまま翻訳している。ところが啓明研究会のほうは、もとの絵に、かなり手を加えている。レイアウト上、よかれと思ったのであろう、コマを二



つに分断したり、もともと「吹きだし」が多くはない絵のなかに、日本のマンガふうの吹きだしを描き加えたりしている。また、コマによって大きさを大胆に変えているのである。

〔左図　啓明版〕〔下右図　中公版〕。

これを見て思い出してしまうのが、手塚治虫を激怒させた、あの連環画版『鉄腕アトム』の描き変えだろう。連環画の形式は崩れるが、日本のマンガの雰囲気に近づけるべく、あえて手を入れたということであろうか。

いまの中高年以上の中国人に、子どものころになんの連環画を読んだかとたずねると、なによりまして『三国演義』の名が出てくる。この物語の図像的なイメージを、映画やテレビが普及する以前から、中国人の脳裏にたたき込んでいたのが、芝居と連環画であったろう。その影響は、海を越えて、異国にまでおよんでいた。『三国演義』連環画という現象は、今後も、さらなる検証がなされるべき大きなテーマである。

連環画『三国演義』（上海人民美術出版社・香港新雅七彩画片公司）と日本版『画本三国志』（中央公論社）の内容対照表

初版刊行		上海人民美術出版社 1957～61〈初版〉60冊 新雅版『三国演義連環画』 1970（普及本10集）	上人美 1963〈第2版〉 60冊	中央公論社『画本三国志』 1983～84 12巻	上人美 1979 48冊	上人美 1994 60冊
順	年/月					
5	57/10	1 桃園結義 【普及本・第1集】	1 桃園結義	1 桃園の誓い【1巻】	1	1
9	57/12	2 董卓進京	2 董卓進京	2 董卓、洛陽に進む	2	2
25	58/05	3 捉放曹	3 捉放曹	3 曹操、捕らわる	無	3
1	57/09	4 虎牢関	4 虎牢関	4 虎牢関の戦い	3	4
24	58/04	5 跨江撃劉表	5 跨江撃劉表	5 長江を渡って劉表をうつ	4	5
46	59/12	6 鳳儀亭	6 鳳儀亭	6 連環の計【2巻】	5	6
10	57/12	7 犯長安【第2集】	7 犯長安	7 長安を侵す	6	7
3	57/10	8 三譲徐州	8 三譲徐州	8 三たび徐州を譲る	7	8
			9 李郭交兵（初版無）	9 離間の計	8	9
2	57/09	9 小覇王孫策	10 小覇王孫策	10 小覇王・孫策	9	10
26	58/05	10 轅門射戟	11 轅門射戟	11 矛を射て和をはかる【3巻】	10	11
4	57/09	11 戦宛城	12 戦宛城	12 宛城の戦い	無	12
6	57/10	12 白門楼	13 白門楼	13 呂布、白門楼に死す	11	13
7	57/10	13 煮酒論英雄【第3集】	14 煮酒論英雄	14 酒をくみ英雄を論ず	12	14
47	59/12	14 伝書救劉備（初版のみ）	無	15 鄭玄の書簡、劉備を救う【4巻】	無	無
22	58/03	15 吉平下毒	15 吉平下毒	16 吉平、毒殺をはかる	無	15
			16 白馬坡（初版無）		13	16
40	58/09	16 千里走単騎	17 千里走単騎	17 関羽、千里を走る	14	17
42	59/08	17 戦官渡	18 戦官渡	18 官渡の戦い	15	18
29	58/06	18 定四州	19 定四州	19 四州を平定する	16	19

19	58/02	19 馬躍檀渓【第 4 集】	20 馬躍檀渓	20 劉備、檀渓を渡る【5 巻】	17	20
11	57/12	20 走馬薦諸葛	21 走馬薦諸葛	21 徐庶、孔明をおす	無	21
23	58/03	21 三顧茅廬	22 三顧茅廬	22 三顧の礼	18	22
48	59/12 61/11	22 火焼新野（張大経/絵） 22 火焼新野（呉志明等/絵）	23 火焼新野 (呉志明等/絵)	23 孔明、新野を焼く （呉志明等/絵）	19	23
20	58/02	23 長坂坡	24 長坂坡	24 張飛、長坂橋に大軍と対す	20	24
32	58/07	24 舌戦群儒	25 舌戦群儒	25 孔明、舌戦をこころみる【6 巻】	21	25
49	59/12	25 群英会【第 5 集】	26 群英会	26 周瑜の計	22	26
35	58/08	26 赤壁大戦	27 赤壁大戦	27 赤壁の大戦	23	27
17	58/01	27 取南郡	28 取南郡	28 南郡を取る	無	28
8	57/10	28 戦長沙	29 戦長沙	29 長沙の戦い	24	29
51	60/02	29 甘露寺	30 甘露寺	30 甘露寺【7 巻】	25	30
54	60/03	30 三気周瑜	31 三気周瑜	31 周瑜、三たび気を失う	無	31
36	58/08	31 反西涼【第 6 集】	32 反西涼	32 馬超、曹操をうつ	26	32
27	58/05	32 張松献地図	33 張松献地図	33 張松、地図を献ず	27	33
18	58/01	33 截江奪阿斗	34 截江奪阿斗	34 江上に阿斗をとりもどす	無	34
30	58/06	34 落鳳坡（初版のみ）	無	35 龐統、死す	無	無
43	59/08	35 取成都	35 取成都	36 成都を落とす【8 巻】	28	35
			36 単刀会（初版無）		無	36
44	59/08	36 威震逍遥津（初版のみ）	37 濡須之戦（改名）	37 逍遥津の戦い	29	37
50	59/12	37 定軍山【第 7 集】	38 定軍山	38 定軍山の戦い	30	38
12	57/12	38 水淹七軍	39 水淹七軍	39 関羽、七軍を水攻めにする	31	39
13	57/12	39 走麦城	40 走麦城	40 麦城の戦い	32	40
52	60/02	40 兄弟争王	41 兄弟争王	41 兄弟、王位を争う【9 巻】	無	41
59	60/07	41 劉備征呉（初版のみ）	無	42 劉備、呉を攻める	無	無

57	60/04	42 火燒連営	42 火燒連営	43 火攻めの計	33	42
14	57/12	43 安居平五路【第 8 集】	43 安居平五路	44 いながらにして五路を平らぐ	無	43
58	60/04	44 諸葛亮渡瀘水	44 七擒孟獲（改名）	45 孔明、瀘水を渡る	34（諸）	44（七）
28	58/05	45 天水関	45 天水関	46 天水関の戦い【10 巻】	35	45
33	58/07	46 擒孟達	46 擒孟達	47 孟達を捕らえる	36	46
45	59/11	47 空城計	47 空城計	48 空城の計	37	47
21	58/02	48 賺曹休	48 賺曹休	49 曹休をあざむく	無	48
55	60/03	49 姜維献書【第 9 集】	49 姜維献書	50 姜維、書を献ず	38	49
53	60/02	50 智取陳倉	50 智取陳倉	51 智によって陳倉をとる	39	50
15	57/12	51 八卦陣	51 八卦陣	52 八卦の陣【11 巻】	40	51
37	58/08	52 諸葛装神	52 諸葛装神	53 孔明、神をよそおう	41	52
56	60/03	53 五丈原	53 五丈原	54 秋風五丈原	42	53
38	58/08	54 政帰司馬氏	54 政帰司馬氏	55 司馬氏、大権をにぎる	43	54
41	58/12	55 鉄籠山【第 10 集】	55 鉄籠山	56 鉄籠山の戦い	44	55
34	58/07	56 姜鄧闘智	56 討司馬	57 姜維と鄧艾、知恵を争う【12 巻】	無	57
39	58/08	57 討司馬	57 姜鄧闘智	58 司馬昭をうつ	45	56
31	58/06	58 姜維避禍	58 姜維避禍	59 姜維、わざわいをさける	46	58
60	61/06	59 二士争功	59 二士争功	60 二士、功を争う	47	59
16	57/12	60 三国帰晋	60 三国帰晋	61 三国、晋に帰す	48	60

＊上海版初版の 14 『伝書救劉備』、34 『落鳳坡』、36『威震逍遥津』、41『劉備征呉』は、初版のみ刊行された。

＊上海版第 2 版の 9 『李郭交兵』、16『白馬坡』、36『単刀会』は、第 2 版から新たに加えられた。

＊上海版初版の 22『火燒新野』（張大経/絵）は、22『火燒新野』（呉志明等/絵）に変更された。

＊上海版 48 冊本（1979）の第 34 冊のタイトルは『諸葛亮渡瀘水』である。

＊上海版 60 冊本（1994）の第 44 冊のタイトルは『七擒孟獲』である。

＊日本版の 9 『離間の計』は、上海版（第 2 版）『李郭交兵』を用いている。